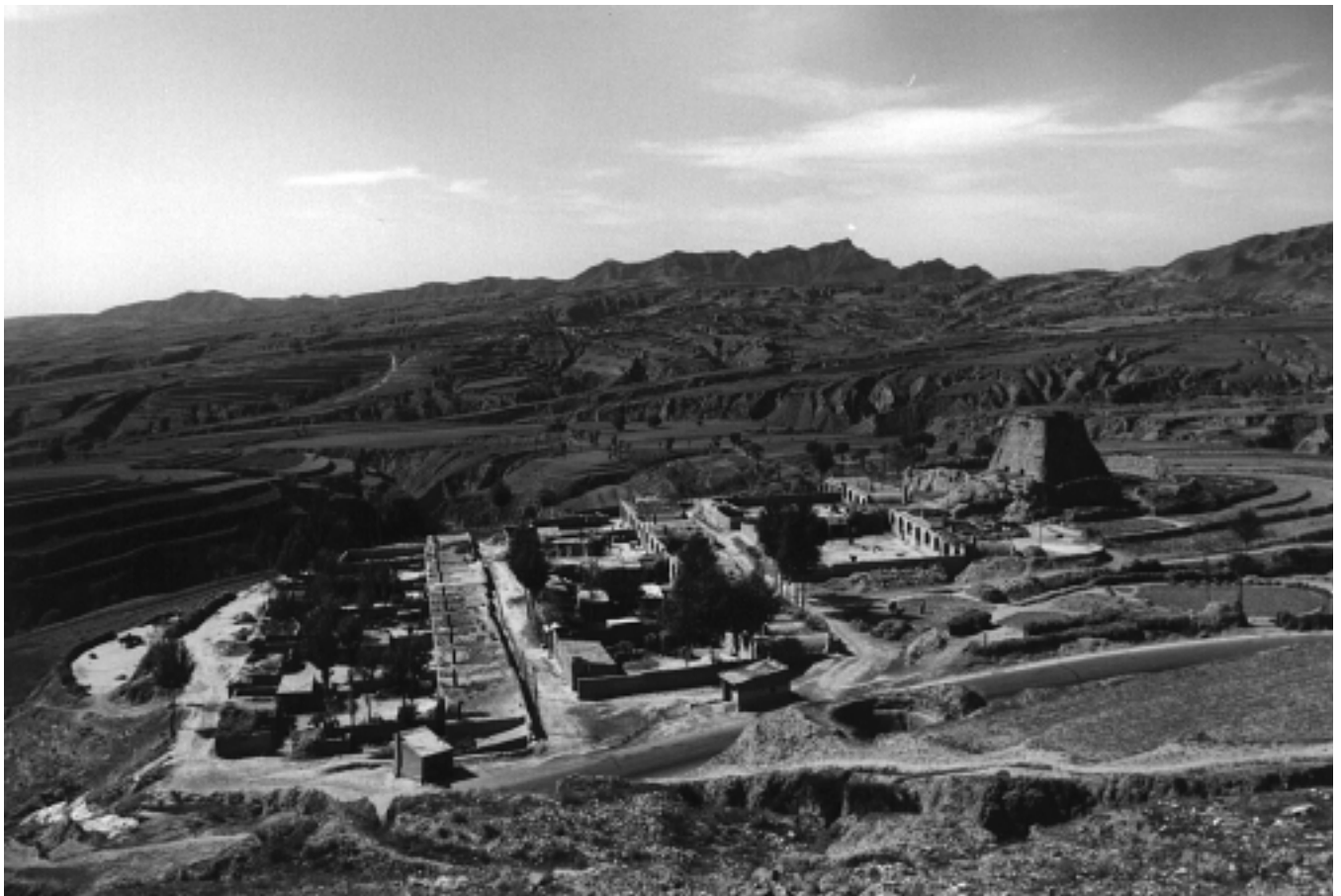


緑の地球 GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- 阪神大震災救援活動の報告 P 3
黄土高原の緑化協力 P 4
●チコロナイ・経過と現状 P 7



のろし台のある黄土高原の村。山には木がなく、耕せるところはどれも段々畑に変わっている。

1995・3

34

(総集編)

みんなでがんばりましょう...就任にあたって

緑の地球ネットワーク代表 立花 吉茂

大震災を受けた直後にもかかわらず、第2回会員総会が盛大に開かれ、熱心に議論がおこなわれました。GENは発展の一途を辿っておりますが、図らずも新役員の代表を仰せつかりました。

身体には自信のあった私ですが、最近肝臓を傷めており、重要な仕事ができるかどうか、疑わしいのですが、や



れるだけがんばってみる、ということでお引き受けいたしました。どうかよろしく願いいたします。

昨年、中国の黄土高原へのワーキング・ツアーに参加して、われわれGENへの中国側の絶大な信頼を肌で感じ、今後の

活動に一段と気合が入りましたが、また同時に最初の交流の糸口をつけることは、たいへんなことだったろう、

とその苦勞もしのばれました。

人為的な破壊のない場所はすべて森林になる恵まれた日本に住んでいると、苗木を植えても育たない場所があるという厳しい環境にはなかなか馴染めませんが、世界はこんな場所の方が多く、北緯30~40度の文明のあるラインでは日本が唯一の場所である、ということが実感できた次第です。

会員のみなさん、1995年度もがんばりましょう。(花園大学教授・咲くやこの花館技術顧問)

次のステップにむけて...

第2回会員総会開かる

緑の地球ネットワークの第2回会員総会が2月18日に開かれました。阪神大震災からちょうど1か月、被災地の会員が多かったにもかかわらず、70名の会員の出席がありました。

ビデオ「黄土高原に緑を！」の上映のあと、川島和義さんと深尾葉子さんの司会で、「緑の地球と私たち」をテーマに、立花吉茂さん、嶋田光雄さん、東川貴子さん、清田祐一郎さん、貝澤耕一さん、浦田勝美さん、松山五郎さ

んが、GENのこの間の活動について、それぞれの思いを語りました。地球環境問題とNGOへの関心は、この3年のあいだにも格段に強まり、阪神大震災は「ボランティア市民革命」ということばまでつくりだしました。GENの活動も大きく飛躍をかける時のようです。緊張感に満ちた、とてもいい発言がつづきました。

第2部の総会では、この3年間のGENの活動の報告、会計報告、会則改

正の提案などがあり、ここでもGENをより発展させるために、もっと積極的に考えるべきだという発言があいつぎました。

立花吉茂代表、西山五郎副代表、高見邦雄事務局長など役員をきめて、総会は終了しました。

会員総会に中国国際交流協会、中華全国青年連合会、中華人民共和国駐日本国大使館、緑色地球ネットワーク山西合作弁事処・大同事務所からメッセージがよせられ、チコロナイ(アイヌ・シサム友好の森)の現地世話人・貝澤耕一さんの発言がありました。

今後の活動のありかたなどについて積極的な意見がだされた。



第2期の役員名簿

代表=立花 吉茂 副代表=西山 五郎 事務局長=高見 邦雄
会計=太田 房子 世話人=竹中 隆/前川 宏/清田 祐一郎
/板坂 靖彦/武田 繁典/川島 和義/巽 良生/岡田 光司/祖谷
公子/磯川 佳子/深尾 葉子/東川 貴子/円満堂 修治/嶋田 光雄
会計監査=松橋 二郎/早草 晋

緑の地球ネットワーク 会則

(1995年2月18日・会員総会で改正)

【名称と所在】

1. 会の名前は緑の地球ネットワーク(略称GEN)といい、事務所を大阪市港区市岡元町3丁目9-16におきます。

【目的と活動】

2. この会は地球環境のための国境を越えた民衆の協力をすすめます。地球上の各地で水土流失や沙漠化が深刻化するなか、そこでくらす人びとの森林をとりもどす努力に協力します。あわせて自分たちの生活の場でも、緑を守り、緑とともに生きるよう努めます。

【会の性格と会員】

3. この会は、目的を共有する、自立した諸個人のネットワークです。それぞれが自分にできることをおこない、たがいに尊重し、信頼の原則のもとに活動をすすめます。趣旨に賛同し、会費を納めるものは会員に



なることができます。団体、グループの入会もできます。

【会の運営】

4. 会員総会を原則として2年ごとに開き、つぎの事項を討議、決定します。

(1) 会の活動の報告と総括、(2) 活動計画、(3) 会計報告、(4) 役員を選出、(5) 会則の改正、(6) その他の重要事項。

5. 会を運営するため、つぎの役員をおきます。

- (1) 代表 1名
- (2) 世話人 若干名
- (3) 事務局長 1名
- (4) 会計 1名
- (5) 会計監査 2名

6. 世話人は役員（会計監査を除く）で構成し、会の日常の運営をおこない

ます。会員は自主的に世話人になることができ、世話人は会員に公開されます。

【会計】

7. この会の運営費用は、会費、購読料、寄附金、その他の事業収入でまかなく、緑化協力のための寄附金等は、会の運営費用と区別し、他の用途に用いません。会計年度は毎年4月1日から翌年の3月31日までとし、年度ごとに監査結果とともに会員に会計報告します。

【付則】

(1) 会費はつぎのとおりです。（いずれも年額1口）

一般会員	12,000円
同居の家族会員	6,000円

学生会員	3,000円
ジュニア会員	1,000円
賛助会員	100,000円
団体会員	一般会員と同額（可能なら3口以上）
会報購読料	年額 2,000円（会費には購読料が含まれます）

- (2) 世話人会の委嘱で、会に顧問をおくことができることとします。
- (3) この会則改正は1995年2月18日から実施します。

以上

阪神大震災

～若ものたちが生き生きと活動

「芦屋市民学生救援隊」からの報告

清田 祐一郎（GEN世話人・学習塾経営）

大震災の直後から動きだした「芦屋市民学生救援隊」の活動は、1か月後の2月19日、県立芦屋高校でおこなわれた「復興祭」で一段落。

高校生を中心に、中学生、大学生が加わった若さのパワーと、「京都あをぞら救援隊」「尼崎市民救援隊」、そして緑の地球ネットワークの会員のみなさんなどによるサポートがみごとに融合して、初期の段階で多くの人の力になることができました。

GENをつうじて集まった義援金は121個人・団体から2,673,276円（3月6日現在）にのぼり、現地にかけてられた人、直接届けられた物資もたいへんな量になります。ほんとうにありがとうございました。救援隊の発起人、清田祐一郎さんの報告です。

当初参加した20名ほどの若者たちは、続々と送られてくる救援物資に戸惑いながらも、いろいろと相談しながら、効果的な救援活動のあり方を模索していました。そのなかから(1) 避難所とその周辺の小さな避難所を訪ね、物資を届けると同時に不足しているものを聞いて、後方支援に要請する。(2) 民生委員を訪ね、避難所に行っていないお年寄りたちを訪ねて手助けをする。

という2つの活動方法を見出しました。避難所の一覧表を作り、地図でチェックし、民生委員との連絡網を作り上げる作業の終わった段階では、大量のボランティアを受け入れてもビクともしない態勢になっていました。

県立芦屋高校の安否確認の登校日に、救援隊のメンバーは一挙に倍増しました。それを機会に若者たちに活動の全てを任せ、私たち年配者は後方支援に回ることにしました。

それ以降の彼らの活動はほんとうに素晴らしいもので、多い日には150名に近いボランティアが活動に加わりましたが、その人たちを組織的に動かせるだけの力量を発揮しました。千食単位の炊き出しを片手間でやりとげる能力も身につけました。中心にいる若者たちは、一日一日、見る間に成長していったのです。

救援活動の最中に私たちはさまざまな人たちに会いました。一生忘れられないように応接してくれた人びと、あるいはやり場のない不満を私たちにぶつけてきた人びと……。私たちが接触



「復興祭」での避難所対抗綱引き大会の様子（朝日新聞、2月20日）

をもった何十か所かの避難所の中でも、全体の面倒をみているしっかりした自治組織がある避難所と、皆がバラバラで、好き勝手な要求—それもほとんど実現不可能な要求を突きつけてくる避難所がありました。

自分も大きな被害を受けているけれども、ともかく周囲のもっと困っている人を助けようとするか、身にふりかかってきた不運と先々の不安だけを内向して考えるか、それによってその後のふるまいは大きく分かれたように思います。

私たちにとって、大震災とその後の救援活動をつうじての何よりの収穫は、多くの素晴らしい人びとと出会い、素晴らしい思い出を残せたことでした。みなさんのご協力に感謝いたします。

黄土高原の緑化協力

～いままでの歩みとこれから～



ここまできたGENの緑化協力

植えられた苗木	241万本	植林の面積	840ha
協力している苗圃	5カ所	小学校付属果樹園	14カ所
協力した資金	256.4万円 (3460万円)		95年3月末まで

となりの国・中国では、今世紀初頭の地球人口に

なぜ中国で？

つ有効な方策が植林です。木が増えれば、農業環境がよくなり、生活も向上します。木材価格は高く、直径10cm以下の間伐材でも売れますから、「緑色銀行」というスローガンがあるくらい、林業は有利な産業でもあります。マツの苗木なら1本1円、果樹苗でも1本20円ほどで、山地の緑化は1ha (100×100m) あたり2,300本を植えて、2万円ほどです。環境に国債はありません。地球のどこかで増える樹木は、けっさよくは私たち自身のためになります。緑の地球ネットワークは1992年1月から緑化協力をはじめ、これまで「環境破壊と貧困」の悪循環を絶

たりの国・中国では、今世紀初頭の地球人口に匹敵する人びとが、必死で現代化を追求しています。そのなかで中国の環境問題は、「世界的課題」だといわれるまでに深刻化してきました。私たちの緑化協力地・黄土高原の最大の問題は、水土流失と沙漠化です。山には木がなく、耕せるところはどこも段々畑に変わっています。夏の一時期に集中する雨で、水が流失し、土壌がやせ、沙漠化がすすむのです。

ももとは豊富な森林があったのに、早くから発達した人類の文明によって破壊されてしまった、と中国ではみられています。「環境破壊と貧困」の悪循環を絶

たりの国・中国では、今世紀初頭の地球人口に匹敵する人びとが、必死で現代化を追求しています。そのなかで中国の環境問題は、「世界的課題」だといわれるまでに深刻化してきました。私たちの緑化協力地・黄土高原の最大の問題は、水土流失と沙漠化です。山には木がなく、耕せるところはどこも段々畑に変わっています。夏の一時期に集中する雨で、水が流失し、土壌がやせ、沙漠化がすすむのです。

ももとは豊富な森林があったのに、早くから発達した人類の文明によって破壊されてしまった、と中国ではみられています。「環境破壊と貧困」の悪循環を絶

たりの国・中国では、今世紀初頭の地球人口に匹敵する人びとが、必死で現代化を追求しています。そのなかで中国の環境問題は、「世界的課題」だといわれるまでに深刻化してきました。私たちの緑化協力地・黄土高原の最大の問題は、水土流失と沙漠化です。山には木がなく、耕せるところはどこも段々畑に変わっています。夏の一時期に集中する雨で、水が流失し、土壌がやせ、沙漠化がすすむのです。

ももとは豊富な森林があったのに、早くから発達した人類の文明によって破壊されてしまった、と中国ではみられています。「環境破壊と貧困」の悪循環を絶

この一帯の農村では、1人あたり年間所得が3,000～5,000円の村がめずらしくありません。山間では1,000～2,000円の村さえあります。耕地面積がせまいうえに、沙漠化がすすみ、それも無理はないのです。それらの村では小学校に通えない子がたくさんいます。5歳くらいから弟妹の子守をしたり、ヤギ、ヒツジの放牧、野良しごとなどにつきます。村の予算がなくて、校舎が老朽化して危険だったり、机や椅子の不備

小学校付属果樹園



が低いぶん蒸発量が少なく、北向き斜面でカラマツ、トウヒ、モンゴルマツなどの針葉樹が十分育ちます。ところが南斜面や、海拔1,200～1,500mの丘陵地では、乾燥が厳しく木の成育が困難です。これは、日本の感覚ではちょっとわかりませんね。高い山では活着率70%以上ですが、南斜面や低いところでは、ずっと低くなることがあります。

むずかしさ



北岳恒山。水の有無がこのコントラストをつくりだす。

私たちの緑化協力地は北緯40度、海拔1,000～2,000mのところにあり、年間降水量は350～450mm、年間平均気温6.0度前後と、そうとうに厳しい自然条件です。

黄土高原のキーワードは「水」です。雨は夏に集中し、土を押し流します。ここを流れる桑干河の水には1立方mあたり44kgの土が含まれるといえはその深刻さをわかってもらえるでしょう。

そして植物が動きはじめる春先、水が決定的に不足します。海拔1,500m以上の高い山は、温度

広がる協力

緑化協力の資金を集めるために、会員やその他のみなさんの積極的な協力があります。中・高・専・大などの学校や職場その他で、使用済みのテレカを集める活動もはじまりました。

使用済みテレカ1枚でマツの苗木10本、2枚で果樹の苗木1本を買うことができます。

1993年度から郵政省国際ボランティア貯金、環境事業団・地球環境基金、大阪コミュニティ財団、国際ソロプチミスト奈良4クラブなどの助成を受け、より大規模で効率的な協力ができるようになりました。

ボランティア募集！

会報の編集や発送、簡単な事務や電話の対応、などなど手伝っていただける方を募集しています。ご都合のいい曜日や時間帯を登録していただき、仕事があるときには事務所から電話で依頼するシステム。弁天町の事務所か、宝塚の山本で作業をすることもあります。やってみてもいいかな、と思う方、お気軽にご一報ください。Tel.06-583-1719まで。

な学校もあります。小学校に果樹園をつくり、将来の収益で、村の教育条件を改善し、どの子ども学校に通える条件をつくることにしました。



このプロジェクトは地元の人々の熱烈な歓迎を受けました。工事には、ヨチヨチ歩きの子供からお年寄りまで、村中の人が参加しています。ある村では労賃をプールして、新しい校舎を建てました。となりの村は同じく労賃をプールして、村に給水設備をつくりました。私たちのちよとした協力が、村をつくりかえつ

つあるのです。

ある意味でヤミクモに

はじまった協力ですが、立花吉茂代表はじめ研究者・技術者の参加もあり、より系統的・科学的な緑化が可能になります。

これから

この地域は黄土高原と太行山脈の接するところで、地形も気象条件もかなり複雑です。

(1) 条件のいいところから植え、困難なところはよく検討しながら徐々にすすめる。技術的な改善を試みる。

(2) 植生観察区をつくり、地域の生態環境に適した樹種をさがしあてる。

(3) 小・中学校に百葉箱をおき、地域気象のデータを集める。

(4) 見本園をつくり、北方系の樹種、

沙漠地帯の乾燥に強い樹種を試験栽培し馴化する。

山や丘陵の緑化にあわせて、小学校の付属果樹園づくりもつづけます。また94年度からは、各地の緑化プロジェクトを有機的にむすびつける「地球環境林センター」の建設が大

同市南郊区ではじまりました。苗圃、見本園、実験園、研修設備などを備え、私たちの協力事業の強力な推進力になると思います。



ワーキングツアー

参加者の声から

▼全体として見た感じは「天と地」、空がパッと広くて畑はずっと遠くまであって、森はほとんどないというのが印象ですね。(加茂わか、92・夏)

▼全体の光景が単色。黄土高原だから黄土色で当たり前なんだろうけど、本当に一色だけ。(杉村正彦、94・春)

▼生活がきびしいでしょう。観光気分で行くのはよくないと思った。町で会った人とは身振り手振りだけ、通訳を通して聞いたのは幹部の話だけだったから、農民が僕らをどう思っているか、昔のことをどう思っているか、もっと聞きたかった。(糸堂、93・夏)

▼木を1本育てるのにすごく手間がかかるんですね。最初に穴を掘ったとき、土が凍結してた。で、30～40cmも掘ったら、よく掘れた、いいよ、いいよとほめられたのに、つぎにいったら直径も深さも70cmは

掘ってある。またちょっと掘って、肥料をいれて、かきまぜて、植えつけて、踏み固めて、水をやって、ビニールをかけて、土で押さえる。そのあと何度も見回って、それでも枯れるものがある。これまで無造作に木を切ったりしてたけど、簡単には切れないと思

ってたけど、簡単には切れないと思

ってたけど、簡単には切れないと思

ってたけど、簡単には切れないと思

ップで掘ってる。あれはすごい！(中井美和子、94・春)

▼学校で勉強もできなくて、せまい村で一生くらし、そこで死んでいくというのは、いまの私にはすごくこわいことです。こんど中国にきて疑問ばかりがふくらんでますよ。わからないことばかり。(桶田美保、94・春)



地元の人たちと力をあわせて凍った土を掘る。植えるときのていねいさが苗の生育を左右する。

広がる協力を支えるために、1994年7月、待望の緑色地球ネットワーク山西合作弁事処（太原・席小軍主任）と、緑色地球ネットワーク大同事務所（大同・祁学峰所長）ができました。実質的な現場監督となる大同事務所は専従者や技術顧問がいる態勢をととのえ、ワーキングツアーの受入れや、緑化協力現地の村との連絡などを担当しています。それまでも次にでてくるような現地の声を届けてくれたりしていましたが、さらに充実した活動が展開されています。

渾源県長条村小学校5年 劉鵬程



私の両親や祖父母は朝早くから暗くなるまでいっしょうけんめい働いているのに、作物はうまく育ちません。私は以前、それがなぜなのかわかりませんでした。いま私はわかりました。おびただしい水土流失がわるさをしているのです。（中略）よく勉強して、大きくなったら

現地のようす

植樹のしかたを学び、生態系の知識をえて、環境保護の専門家になりたいです。ふるさとの環境保護だけでなく、日本にもいって、みなさんといっしょに、人類全体、地球全体の環境保護に役立ちたいと思います。

靈丘県下寨北村の座談会から

▼一日も早く果樹園ができるといいなってみんな言ってるよ。果樹園ができたら、私たちの両親も負担が軽くなるし、国にも、みんなにも、とてもいいことですよ。（杜金香・小学4年生）

▼いざこの村に地球環境林をつくるとなったら、日本に対する見方が変わるんじゃないかな。日本軍国主義が以前にこの村にたいへんな災難をもたらしたことは忘れられっこない。でもいまじゃ世界の人たちが平和を願ってるし、日本人たちも平和を望んでる。日本人たちがここの環境緑化を助けてくれるってこと

は平和と友好のシンボルなんだ。（李福義・小学校教員）

▼この村にも日本の人たちが来るそうだけど、気持ちよく心から歓迎しようよ。なんどでも来てくれたらいいじゃないか。（夏明国・村民）

▼希望小学校ができて、そこに果樹園ができて、明るい広い教室で勉強できるようになったらいいなあ。先生の話をよく聞いて、まじめに勉強して、大きくなったら人の役に立つ人間になるつもりです。自分たちの村なんだから、きれいな、もっという村にしたいんです。（孟春蘭・小学校5年）



山西省の自然

石原 忠一

(92年緑化協力団団長)

(27) 山西省の山野

中国は偉大な人類文化を創造し、発展させてきました。この輝かしい文明の歴史の中には、戦争や自然環境の破壊も数知れず積み重ねられました。

このまま自然環境の破壊がすすむと人間の生活そのものが続けられなくなることを、いち早く洞察され、全人民あげて国土緑化の運動を展開され、青年連合会はその先頭にたって多くの成功をおさめられました。

この道はまだまだ遠いのですが、環境保全、水土流失防止のために困難に立ちむかっておられる山西省のみなさんの運動に感動して、私たちも連帯して、この壮大な黄土高原の自然を、緑豊かなものに

復活させる事業に募金をつのり、多くの賛同者を得ることができました。

氷河期以来、西の乾燥地から風に運ばれて堆積した、広大な黄土（Loess）



見渡す限り茶色一色の山々が、緑になる日はいつくるのだろうか。

は、まだ多くの謎をもっていますし、年降水量400mmのほとんどが夏場に集中する蒸発のはげしいこの地に、どのような遷移をたどって森林を復活させるのかの科学的な戦略をたて、まず手近なところから植栽がはじめられ、林草覆蓋率は着実に増加していると発表されています。

自然環境は、祖先からの遺産であるという認識から、次の世代からの預かりものであるという考え方に変わってきました。私たちは、自らの生活する日本の自然環境を保全すると共に、環境には国境はないのですから、友好の歴史の絆をしっかりとらせて、かつての侵略戦争の犠牲をつぐなう意味もこめて、山西省の山野におもいをいたし、異なる文化を共に学びあいながら、張香山先生が言われるように、渾源の荒山寒嶺が一面の緑におおわれる日をめざしたいものです。

ナショナル・トラスト運動

チコロナイ

(アイヌ・シサム友好の森)

～その趣旨、経過と現状

北海道の各地は、本来、アイヌ民族が自然と調和して暮らしていた“アイヌモシリ”（人間の静かな大地）でした。大地と自然は、アイヌ民族の生活の場である“コタン”（村）から、“コタンコロカムイ”（村を守る神しまふくろう）の住む森、そして“カムイミンタラ”（神々の遊ぶ庭）に続き、“カムイワキ”（神々の住む山）に至る一体のものでした。しかし、約500年前からの和人の侵入、略奪、森林伐採による自然破壊が起り、今なお進行しています。

1993年の「国際先住民年」を契機に、1994年12月からの「世界の先住民の国際10年」に向けて、私たちは、いま、一つの運動を始めます。北海道の各地で、とりあえずナショナル・トラストによって私有地の山林を買い取り、また土地所有者と保全契約を結ぶことによって、この自然破壊の流れにストップをかけ、本来のアイヌモシリとして再生していく運動です。

『チコロナイ』とは“私たちの沢”という意味で、昔、沢すじを中心に森の恵みをうけて生活していた地域を表しています。私たちは、この森林回復の活動をとおして、かつてのアイヌ民族の自然と調和した“アイヌプリ”（生活のしかた）を謙虚に学び、侵略と人権抑圧の歴史をふまえて、アイヌ民族と、本来の意味での“シサム”（良き隣人）とが友好を深めることをめざします。これは、アイヌ民族のアイヌプリの精神と生活、文化を回復し伝承していく活動の発展に寄与するとともに、シサムにとっても、“人間本来の真に豊かな生活”を考え直す契機となるでしょう。

●活動内容

- 1 ナショナル・トラストで私有地山林を買い取り、『チコロナイ』として再生させます。
- 2 私有地山林の所有者と、一定期間（5年または10年）、代価を支払って保全契約を結び、自然林を保全し、

『チコロナイ』として活用します。

- 3 上記の目的のために募金活動を行います。また、趣旨を広め、活動を発展させるために、学習会、宿泊研修会などの催しや通信の発行などを行います。

●募金方法

金額はいくらからでもかまいません。できれば1万円以上をお願いします。2千円以上の抛出者には、以降3年間、催しの案内や現状報告などの通信を送ります。

●組織・運営

世話人、現地世話人、事務局をおきます。世話人と現地世話人は活動全般の方針決定、実施、点検などを相談して行います。事務局は世話人のもとに募金受付、会計、通信発行などの事務を行います。将来、基盤が整いしだい財団法人化をめざします。

●将来の目標

北海道の各地で、その地域の独自性や中心になって活動する人たちの個性を生かした、アイヌとシサム、そしてこの問題に関心を持つすべての人々の協力による森林回復を進めます。活動地域が複数になれば、お互いの交流と協力を密接に行い、将来、全体を一つの財団法人にしていくことをめざします。

●経過と現状

問題提起から2年間の準備の末、1994年12月10日から第1期計画の募金活動がはじまりました。平取町二風谷のアイヌ民族の方々といっしょに、故貝澤正氏の遺志をつぐかたちでおこない、まず300万円が目標です。

さいわい新聞でも大きく報道され、寄付は2月28日までに、113人、222万円あまりになっています。3月末までに目標を達成して、予定通り1ヘクタールの山林買い取りや保全契約を実



冬のシケレペツ沢—自然林が沢をまもる—

現させていきます。そして、4月以降の第2期計画をたてるために、二風谷の方々とは相談していきます。

募金活動だけでなく、この1年間に、大阪での講演会、有志による準備のための数回にわたる現地との交流、8月のワーキングツアーなどをおこなってきました。今後とも積極的に発展させたいと思っています。3月末には数名で現地へ行きます。8月にはワーキングツアーを実施します（18日～23日の予定）。

また、『チコロナイ』部会担当の世話人も3名になったので、月に1回の定例学習会を行うなどの、日常的な活動も充実させていきたいと思っています。積極的に参加してください！

チコロナイ部会学習会

4月8日（土）午後4時～8時

GEN事務所

今後のことも相談します。関心のある方は連絡してください。

連絡先：武田繁典

Tel./Fax. 0727-63-4171

チコロナイへの寄付は

郵便振替00900-2-52024

「チコロナイ」宛。

※チコロナイ協力者のお名前は、次号に掲載いたします。

ビデオ『黄土高原に緑を!』

ビデオ『黄土高原に緑を!』は、緑の地球ネットワークの3年間にわたる黄土高原での活動のようすを28分にまとめたものです。文部省や大阪府、京都府、大阪市の教育委員会、中国大使館などの選定・推選をうけ、すでに300人近くの方の手に渡っています。

より多くの方にごらんいただき、この緑化活動について知ってもらいたいと思います。

黄土高原に緑を!

ビデオ作品・28分・カラー

定価 5,000円 会員価格 3,500円

郵送料 390円 貸出料 1,000円

制作にあたって地球環境基金の助成をうけました。

使用済みテレカ回収中

「最近、公衆電話を使うと、テレカが落ちてないか見回すくせがついちゃって」「自動改札を通ったところに、よく回数券が落ちてるんだよね」なんて声を聞くと、テレカ回収もすっかり定着したなとうれしくなってしまう。捨てればそれまでの使用済磁気カードが、1枚で5~10本のマツの苗木になる。身近な緑化協力としてあつという間に広がったのもうなずけます。今後ともみなさんのご協力をよろしくお願いします。

編集後記

総会が活発な議論のうちに終わってほっとひと息の事務所に、めずらしく梅の枝がやってきました。さすがにう

空き缶募金にご協力を!

“ちりもつもれば山となる”、毎日の生活のなかででてくる小銭をためて、苗木にして、黄土高原で育てませんか。方法は簡単、350mlの空き缶にGEN特製のステッカーを貼るだけ。あとはあなたの心がけ次第。貯まれば、GENに送ってくださればうれしいのですが、不意の出費に消えても、仕方ないかな。ステッカーご希望の方はGEN事務所までご連絡ください。また、店頭においてご協力下さる場合は、スタンドも用意しています。

土佐のハッサク・ブントンをどうぞ

◎ハッサク (無農薬、有機栽培)

10kg 3,000円

●ご注文は

〒781-74 高知県安芸郡東洋町甲浦

田中隆一さんまで TEL/FAX.08872-9-2500を

◎土佐文旦 (低農薬、有機栽培)

5kg 2L 10玉前後 2,800円

L 12玉 " 2,300円

M 15玉 " 1,800円

(送料別途)

ぐいすまでは来ませんが、紅白の梅は暖房のきいた事務所でよい香りをさせています。日本では花といえば桜ですが、中国では梅。花盛りや散り際の姿を愛する日本と、たかい香りを愛でる中国のお国ぶりがうかがえます。そういえばワーキングツアーの第2班が訪中しているころ、日本は桜の花盛りです。みなさんがこころおきなくお花見を楽しめますように。

(東川)

